令和７年度学校評価表

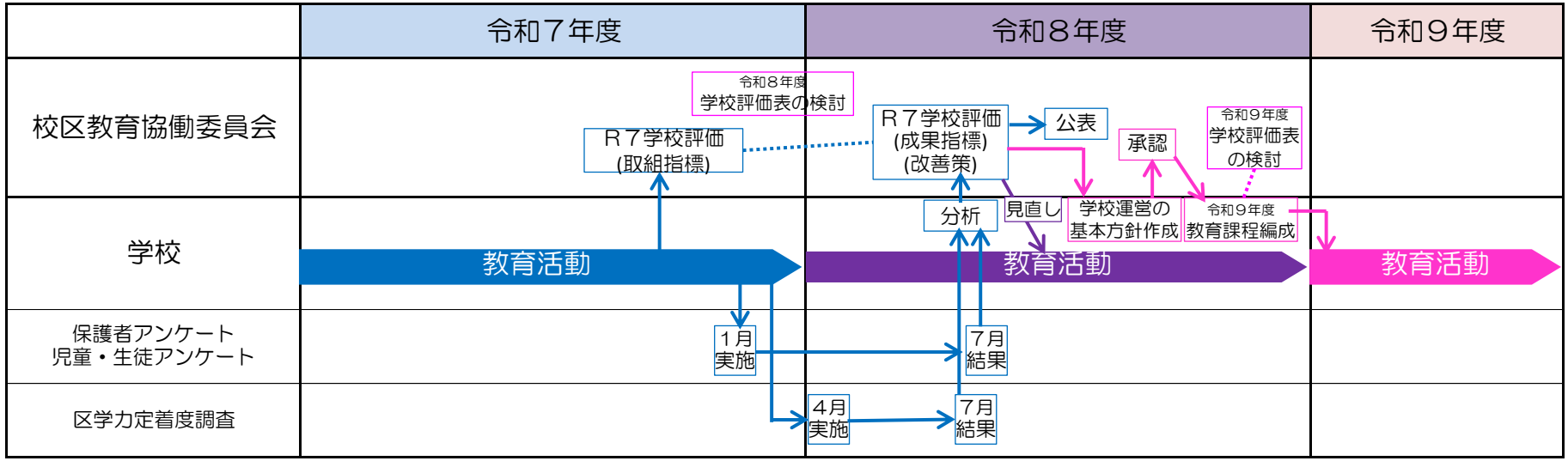
品川区立御殿山小学校	校長	板澤健一
御殿山小学校校区教育協働委員会	委員長	小川哲男

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立御殿山小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	○基礎的・基本的な知識や技能に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力、さらに主体的に学ぶ意欲を含む総合的な学力の定着を図る。 ・学びの質を高める授業改善を図る。 ・協同的な学びを実現させる。 ・ICT活用とデジタルリテラシーの育成する。 ・地域や保護者との連携強化する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	区学力定着度調査において、どの学年も各実施教科の対区平均を100とした時の指数105以上になる	国語は2・4～6学年（全）、社会は4～6学年（全）、算数は5・6学年、理科は5・6学年が指数105以上であった。国語の3学年、算数の2～4学年、理科の4学年、英語の6学年は、いずれも区平均は上回ったものの、指数105には至らなかった。	B	学力の二極化が生じており、この解消が課題である。そのためには、個に応じた学習形態の工夫が必要であり、特に、下位層の底上げが重要であると考える。算数での習熟度別少人数学習の徹底や、帯学習の有効活用、AIドリルの活用の推進により、学びの定着を図る。また、問題解決型学習を社会科や理科で取り入れ、上位層の学びに向かう力を伸ばしていきたい。
	ICT機器・デジタル教材を効果的に活用し、一人一人の習熟に応じた指導をする。	タブレットのアプリを使って、空いた時間にAIの漢字ドリルや計算問題を行う姿がみられたが、全学級までは達成していない。	B	
	基礎的・基本的な内容について確実に定着できるよう、帯の時間を活用する。	帯学習は毎日15分を2回、漢字ドリルや計算・ミニテストに充て、基礎基本の定着を図った。	A	
②	校内研究授業を活性化させ、子どもたちの思考力の向上を図る。「御殿山思考スキル」を取り入れた授業を行い、6割以上の児童に「御殿山思考スキル」を定着させる。	校内研究については、全教員の意識が高まり、学校全体で「御殿山思考スキル」の授業での活用が進んだ。児童への定着については、約7割であった。	B	おおむね目標を達成できたが、「御殿山思考スキル」活用の学級間格差の解消が課題である。来年度から市民科での探究学習が本格的に始まるので、その中で今年度取り組んだ、「御殿山思考スキル」や「御殿山探究プロセス」を活用し、探究学習を深めていきたい。また、思考力を高めるために、自ら課題を立てて解決していく学習を増やしていく。
	学習方法において単元や授業の導入場面で、事象提示や教材の提示、場面の設定などの工夫をする。	校内研究で、本校オリジナルの「御殿山思考スキルカード」を作成し、先生方に配布して、授業で使用することで授業展開を学校で統一して取り組んでいる。	A	
	問題解決の過程において、一斉学習での意見交流やグループ学習を取り入れる。	理科・社会・生活科の校内研究授業を行い、問題解決の過程について研修する。理科は授業が終わった。生活科は12月に授業を行い、社会は1月に実施する。各学級でも取り入れていくようにしている。	B	
③	4年生以上の学級風土調査において、「この学校の授業は楽しい」と答える児童が6割を超えさせる。	学校全体の結果は、53．3%だった。6年生のみ40%台、他の学年は50%台だった。	B	CSの協力を得て、企業協力の授業などはおおむね目標を達成できた。机上の学習だけでなく、体験型の学習に取り組み、地域・保護者・企業等を積極的に招いていく。市民科の探究学習にも生かしていく予定である。
	地域の専門家や企業・保護者ボランティアを積極的に招き、学びの多様性を実践し、学校での授業に興味をもたせる。	地域めぐり（1・2・3年）、品川かぶ（2年）、犬とのふれあい教室（3年）、茶道教室（3年）、プラスチックの授業（4年）、サッカーのグッズ提案（4年）、水道キャラバン（4年）、江戸切子（4年）、トップスポーツ教室（4年）、救急救命（5年）、品川クルーズ（6年）、ドリームジョブ（6年）を行った。外部講師による授業は興味をもって取り組んでいる。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立御殿山小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	豊かな人間関係を築き、礼節を重視する社会性・人間性を基盤とした自立を目指す。 ・集団活動を通じて協調性を身に付けさせ、ルールを守ることの公平性や気持ちよさを実感させる。 ・自分の個性や人との違いを大切にできる活動を取り入れ、自分に自信を持たせながら、他者理解を深めさせる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	i-checkにおいて挨拶やきまりを守る等、規範意識項目において70%以上の児童が肯定的な評価をしている。	2～6年すべての学年で、70%以上の児童が肯定的評価を回答することができていた。	A	規範意識について、肯定的な評価を70%以上の児童が回答できた。一部、規範意識が低い児童がおり、きまりを守る意識を高めることが課題である。中学年までの間に規範意識をもたせる指導を徹底し、児童を自律させる。学校での基本的な生活指導(進んで挨拶をする、靴をそろえる、忘れ物をしない、教室環境を整えるなど)を全学年でそろえていくことで、全児童の規範意識を高めていきたい。
	i-checkを活用し、社会性や生活習慣に関わる項目における個人の状況を見とり、重点的、継続的な指導により、ソーシャルスキルを向上させる。	全校朝会での生活指導部の月目標の指導を行い、日々の学級指導の中で、月目標や授業規律等について指導している。一部の児童には向上した姿がみられる。	B	
	週番の教員が挨拶運動を毎朝登校時に行う。また、廊下での会釈が日常化できるように指導する。	朝、週番の教員が挨拶を行うことができている。 廊下での会釈については、全体に指導し、できている児童もいる。	B	
②	4年生以上で実施の学級風土調査において「児童はお互いのことを尊重している」「一人一人が違いを大事にされている」の肯定的な回答が6割以上である。	「児童はお互いのことを尊重している」の学校平均が52．5%（6年のみ40%台）、「一人一人が違いを大事にされている」の学校平均が52．4%（6年のみ40%台）だった。	B	デイケンでの取組や、市民科の授業を通して学級風土の醸成に努めてきた。PTAや地域の行事も活発である。依然として他者を尊重する意識が低く、これを高めることが課題である。課題解決に向け、自分も他者も尊重する学習を取り入れていく。また、いじめ予防の学習プログラム「トリプルチェンジ」を継続して実施するとともに、学んだことを実践できるよう日常でも指導を継続していく。 (令和8年度は、昭和医科大学教授で元品川区院内学級担任の副島賢和先生によるいのちの授業を実施する予定)
	学級風土調査や生活アンケートなど、子どもたちの学級への印象等の調査で、否定的な回答をしている児童への働きかけを徹底する。	デイケンで不安があると答えた児童の聞き取りを全学級で実施した。	B	
	市民科授業を充実させ、規範意識や他者理解を深める学習を通して、他者を尊重する気持ちを育てる。	市民科の授業を年間指導計画を立てて計画的に実施している。市民科の自治的活動領域の道徳実践能力を指導する単元で他者を尊重する気持ち等について指導を重ねている。	B	
	保護者や地域と信頼関係を築き、連携を図って、地域で子どもたちを見守り育む意識を醸成していく。	町会の方が登下校の見守りを行っていただいている。また、GGPの回覧で、夜の出歩きについての注意喚起を行っていただいた。地域では、もちつき、祭り神輿、ファミリーレクレーション（小関）、ラジオ体操、夏祭り、ハロウィン等を行った。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立御殿山小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	○心身のバランスの取れた児童の育成のために、体力向上に向けた系統的な取組の推進と最後までやり抜く力を養う。 ・日常的に体を動かすことを楽しみ、運動に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・児童自身の行動の振り返りを通して、最後まで諦めずにやり遂げる、信念の強さを身に付けさせる。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	東京都統一体力テストにおいて、すべての項目で平均を上回る。	すべての項目で上回ることはできなかった。2・4・5・6年男子はほぼ全国平均並みの数値。女子は8項目中半分が全国平均レベルだった。男子・女子共に低いのは、ボール投げ・シャトルランだった。	B	体力向上と食の大切さについて継続して取り組んできたものの、体力テストでは、特に、ハンドボール投げと20mシャトルランにおいて、ほとんどの学年で平均を上回ることができなかった。計画的に課題となる運動に取り組むとともに、少しでも上達したりできたりしたら、自己の成長を実感できるような声掛けや振り返りに取り組む。家庭にも、体力が学力を支える面があることを伝え、体を動かす習慣づくりを家庭と学校両面から取り組んでいく。
	体育の授業での学習カードを高学年では活用し、自らの運動に対して課題を見つけられるように、支援していく。	ロイロノートで作成し、困ったときに見る動画を入れた学習カードを使用したクラスもあったが、全学級で定着していない。	B	
	ソフトボール投げは全学年で課題となっている。家庭への働きかけも含め、投げる運動に積極的に取り組ませる。	各学年で体育の時間に「投」の授業を行っている。低学年はドッジボール、中学年はTボールで、高学年は投てきフォームトレーニングでラグビーボールやジャベリックボールを投げる練習をしている。	B	
	体力向上の一つの取組として、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。	給食だより、昼の放送などで食に関する知識を知らせてきた。グリンピースの鞘むきやとうもろこしの皮むき、さつまいもの皮むきを低学年で行い、自分で作業したものだからと食べてみようとする児童もいたが、全体的に望ましい食習慣が身に付いたとはいえない。	B	
②	i-checkにおいて、「最後まで諦めずにやり抜く」など「充実感と自信」の項目で肯定的な回答が6割を超える。	2～6年すべての学年で、肯定的な回答が6割を超えることができた。	B	肯定的な評価が6割を超え目標を達成できた。今後も、児童の成功体験を増やし、自信をもたせていく。そのために、担任が児童のちょっとした変化を捉えてほめて伸ばすとともに、レジリエンスについての指導内容を学校として作成する。自分や友達や周りの大人、伝記の偉人伝などから、失敗を成功に変えた体験を知ったり、自らの体験を振り返ったりすることで、回復できる「たくましさ」についての指導につなげていく。
	教員は子どもたちに、前向きな声掛けをして子どもたちを励まし、子どもの成功体験を増やし、自信を持たせていく。	学級風土調査で、担任の先生は「うまくできたときにほめてくれる」（51.7%）、「自信をもたせてくれる」（52.2%）という結果だった。	B	
	失敗した時にも次への成功につなげられるようなレジリエンスの育成を図る。	区教育ビジョンや夕会等でレジリエンスについて説明を行った。しかし、レジリエンス育成の指導内容について、学校で統一された指導内容がまだ作成されていないので、今後作成する。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立御殿山小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	○「いじめは絶対に許さない」を学校経営の第一の核とし、教員・児童・保護者もいじめを見逃さない意識を徹底する。 ・児童の悩みに対していつでも相談できる雰囲気や環境を構築する。 ・教職員は全校児童一人一人の様子や言動を把握し、どんな些細な情報も管理職への連絡を徹底する。 ・管理職・生活指導主任・養護教諭・SCなどがメンバーのいじめ防止対策委員会を毎月1度定期的に開催し、緊急の場合は、随時行いながら、いじめ未然防止に務める。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	年3回行う生活アンケートや学級風土調査で「学校が楽しい」という児童を7割以上にする。	学校風土調査で「学校の授業は楽しい」（53.3%）、「この学校の児童は学校活動を友達と一緒にすることを楽しんでいる」（52.4%）、「児童と先生との関係はいい」（52.2%）だった。	B	毎月いじめ防止対策委員会を開き、対応を検討してきた。デイケンの実施率を高めることが課題である。各担任が毎朝デイケンを実施するよう生活指導部から呼びかけ、担任も児童もチェックすることを習慣化する。今後も、子どもの小さな変化を見過ごさず、気になることはすぐ確認し、家庭と連携していく。「いじめは絶対に許さない」という考えを全児童がもてるよう、丁寧に指導していく。
	学校が楽しくないと思っている児童について担任が積極的に声掛けしたり、SCやHEARTSを活用したりして、改善を図る。	朝の打合せや担任からの相談等で、気になる児童の話が出た場合は、SCやHEARTSとつないで改善を図った。	A	
	生活指導夕会や児童理解研修を通して、いじめにつながる可能性のある事例の発見に努め、できるだけ未然防止となるよう、組織的に対応する。	夕会に限らず、いじめにつながる事案だと思われた場合、いじめ防止対策委員会を即時実施した。友達との関わり方についてトリプルチェンジ等の授業や指導を通じて、初期対応に努めている。	B	
	品川区で取り組んでいる各種調査ツール(デイケン・いじめDアンケート・Nicoli)を効果的に活用し、未然防止に努める。	デイケンの結果を活用し、相談ありの児童に聞き取りを行い、必要があれば関係児童に聞き取りと指導を行っている。	B	
②	いじめが起こった場合、早期対応を心掛け、組織的な対応を通して、100%解消する。	11月現在、13件出ているいじめ報告のうち、いじめの解消は5件、継続事案は8件であり、100%解消にはなっていない。	B	教員一人一人のいじめに対するアンテナを高くしていく。特に暴力行為があった場合は速やかに事実確認をし、関係諸機関と連携していく。年1回スクールカウンセラーから、教員が傾聴について学ぶ機会を設け、加害者・被害者どちらの思いも真摯に受け取れる力を養う。保護者にも、傾聴の重要さを伝えていき、子どもたちが困っていることを言語化できるように環境を整えていく。
	複数で対応し、被害者加害者どちらにも丁寧に対応し、事実を正確に把握したうえで、本人同士の解決を図る。	複数教員で対応し、丁寧に聞き取りを行うことはできているが、結果をみると解決に結びついていないものがある。	B	
	保護者への対応を速やかに行うが、心情に寄り添いながら、事実を正確に伝え、早期解決を図る。	保護者への対応を速やかに行い、事実を正確に伝えるよう心掛けることができている。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立御殿山小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	○個人と社会のウェルビーイングを実現するため、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、確かな学力の育成や主体的に社会あの形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成等を重視した教育活動を展開する。 ・ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的によい状態にあることをいい、短絡的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられることも含む包括的な概念。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	読書活動を通し、児童の心の成長や主体的な学習習慣、社会性をはぐくむ。	朝の時間の読書は定着してきた。読書旬間や本の帯作り等、読書を呼びかける活動も継続している。	A	おおむね目標を達成できている。放送委員会と図書委員会が連携して、放送で本の紹介を行い、読書の幅を広げるなど、さらに読書活動を推進していく。
	読書活動を推進する手立てや工夫を図書スタッフや地域人材の活用等、様々な側面から企画し児童に啓発していく。朝読書、読書旬間、図書ボランティアなどを充実させ、読書活動を推進していく。	今年度も図書委員会で読書に関するクイズやラリーを行い、読書活動を推進する取組を充実させることができた。保護者ボランティアによる読み聞かせ、たてわり班による読み聞かせ、読書記録の活動等を、図書ボランティアや図書館スタッフの協力を得て実施している。	A	
②	ウェルビーイング教育推進校として、子ども・保護者・教職員等御殿山小学校に関わる人々のウェルビーイングの向上を目指す。	本校の現状について振り返ったり計画を立てたりすることができた。	B	１１月と1月に5年生が授業でウェルビーイングを扱って校内で授業公開した。このことにより、教員のウェルビーイングについて意識は高まってきた。さらに、理解を深めるために、学校生活の中で無理なく取り入れられる実践研修を実施するとともに、市民科や各教科でウェルビーイングについて取り組むよう、年間指導計画に位置付ける。
	学びの環境を「ウェルビーイングをもたらすもの」に変えていくように、環境の見直しをする。	８月に生活指導主任が「ごてんやまのウェルビーイング」について校内研修を実施し、教員一人一人が、児童と教員それぞれのウェルビーングについて振り返りを行った。１２月にウェルビーイングカードを使った授業を公開した。	B	
	子どもたち一人一人が学校生活を楽しめるように、多様な学びを通してウェルビーイング・コンピテンシーを育むよう実践の設計をする。	８月の研修で、各教員が実践の設計を行って提出した。	B	
③	保幼小連携を進め、一貫性・連続性を目指すと共に、豊かな人間性・社会性を培う。	左記の目標のために、５月に御殿山幼稚園と1年間の計画について打合せを行った。	B	行事の前に幼稚園と打合せを行うことで、内容について、小学校・幼稚園ともにねらいを達成できる計画を立てることができた。来年度も一つ一つの行事のねらいを明確にし、幼稚園・小学校両方ともに、学びが深められるように計画していく。
	御殿山幼稚園と連携し、給食体験、学芸会鑑賞・学校体験、ウィンターフェスティバルを実施する。	１２月現在、運動会の低学年リレーの練習見学と5年のソーランのリハーサルの見学、２年生の学芸会鑑賞を実施した。他は、これから実施する計画を立てている。	B	

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成